

■ 局所麻酔下胸腔鏡

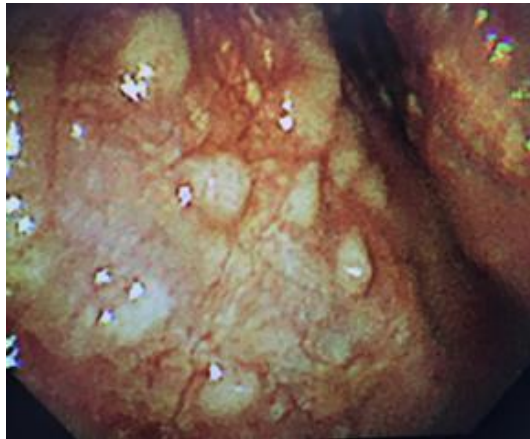
2018年5月

1 局所麻酔下胸腔鏡とは

局所麻酔下胸腔鏡とはその名の通り、局所麻酔で行う胸腔鏡です。当院では2017年度より当検査を導入して、胸水の迅速診断や一部の症例（膿胸や難治性気胸など）では治療にも応用しています。

2 主な目的

胸水貯留症例に対して胸腔内の観察と胸膜の生検などを行い、早期に診断を確定することです。



胸腔鏡により中皮腫と診断

3 方法

- (1) 無菌操作と安全性確保のため手術室で行います。
- (2) 胸水貯留部にポートを挿入し、細孔胸腔ビデオスコープ（先端がフレキシブルな硬性胸腔鏡）を入れて胸腔内を観察します。
- (3) 病変を確認した場合はその部位（壁側胸膜または横隔膜）を生検します。
- (4) 検査終了後にドレナージチューブを留置し、検査中虚脱していた肺を再膨張させます。
- (5) 所要時間は30分～1時間ほどです。
- (6) 出血傾向や胸膜癒着の高度な症例は禁忌となります。また低酸素血症など全身状態不良の場合も実施困難となります。

4 臨床成績

当院はまだ導入したばかりですが癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの早期診断に有用であり、確定診断率は約9割との報告もあります。